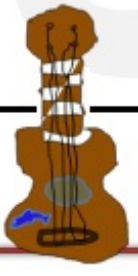
考えウシ

第誤算回　『使命』と
「ナンシー席が空いてますけど、何か？」

広告欄

「そこにいてほしい。
でも、流れてもほしい」
－星－



弦楽器イルカ⇒友人

第誤算回　『使命』と「ナンシー席が空いてますけど、何か？」～G から U へ～

「NakamuraEmi」の歌がいい。今まで知らなかったのが恥ずかしいくらい良いんだけど、『NIPPONNO ONNAWO UTAU』ってアルバム名がとにかくダサい。あとＮが多い。ここだけなんとか、せめて別にメインのタイトルがあればもっと売れんじゃないかね（無駄に上から目線のウマシカだけど）。

　子供の頃は「だって〇〇君もやってた」って言う子に対して、「言い訳はやめなさい。〇〇君もじゃなくて、あなたが悪いかどうかだよ」って言われてるのをよく聞いた。その度に言い訳カッコ悪いと思ってた。
　でも最近じゃ偉い大人でも、何か指摘されたら「そういうお前だって」と言い返せばうやむやにできる国になった。さらに同じ行いでも立場によって許されたり批判される国になった。
　敵は自分だ。他人じゃない。って手垢まみれな文句だし、同時多発的にみんな言い始めてるけど、「NakamuraEmi」が歌うとしっくりくるよ。

　あと俺も途中から手術数を間違ってて申し訳なかったけど、福島の小児甲状腺がん（疑い含む）が200名を超えてから、検査とかが複数あるせいで正確な人数がわからなくなって、公式の会議で結局それらの全体像を把握する予定はないって話と、でも影響はないって論文は出た。
　さらにその論文も、過小評価やらデータの出た経緯等に問題があるって話や、福島の公式な定例会議でも影響があるかないかで御用学者側と小児科医側が揉めてたけど、特に大きな報道はされないし、ネット動画の再生回数も増えてない。8年経った3月11日のテレビも津波はやるけど放射線はしない。
　その会議に参加してる小児科医師から「小児甲状腺がんの死亡率が低いのは当たり前で、小児科医にとって重要なのは子供が健康な状態で暮らせているか、そのために手術が必要かどうか。転移してる子や早期発見が重要だった子もいる中で、死なないから手術しなくていい、放射線の影響もないという結論ありきで、はじめから聞く耳を持たない学者は参加しない方がいい」って趣旨の発言もあった。

　そもそも国策で「絶対安全」の原発が爆発しなければ誰も検査や手術なんてしたいワケがない。爆発したから仕方なく受けてるだけだ。
「影響はないことを証明する」って大風呂敷広げた調査で、200名超えたら急にあたふたアヤフヤにして「過剰診療だから中止」ってんなら、必要ない検査を受けさせたうえ間違って手術した国が責任を取るべきだろう。子供一人につき1億でも2億でも賠償金払って一生面倒をみないと、安全神話の嘘や人災の責任はとれないはずだ。
　さらに、影響があるかどうかの議論も嫌々ながらやっと始まったのに、それを待たずにやめる理由と責任を明らかにすべきだろう。
　他人の児童虐待のニュースには大騒ぎのくせに、甲状腺がんの子の「自分たちのことをもっ

と知ってほしい」ってアンケート結果や窮状を議論するでもなく無視してる、自分も含めた全国民が福島の児童虐待に加担してるって事実には向き合わない国になった。
　少なくとも、原発いるいらないの議論はどうせグダグダになるから後回して、それとは全く別物で、子供たちの問題は一刻も早く対応するのが大人の責任だろう。

　今回ちょっとざっくり鯉のエサよろしく、この国の文化の方向にぶん投げます。「パクつけ！」って咆哮で。

　毎度だけど、少子化も、実質賃金低下も、中途半端な小中学校スマホ持ち込み解禁も、格差を拡大させるために国がわざとやってる政策だ。わかってて誰も読解しないんじゃ、先の大戦で大本営発表に騙された教訓から何も学んでない。こんな無思考じゃ、青汁で濡れた詐欺師の手に泡とお札が張り付くよ、そりゃ。
　この国は国益のために、わざと国力を落としてでも米等に貢ぎ続けた。でも今や米は世界警察から降りて、経済や文化の摩擦を解決する労力を米中露欧他で分割しようとしてる。米は北を突き放して中韓に責任取らせるでしょう。米がぶん投げた中東を露がまとめたように、中が新しい世界警察としてアジアを仕切る流れだ。
　経済的コストや大戦リスクを減らすための新世界秩序が着々と進んでると、俺は思う。この時点ですでにこの国のハシゴは半分外されてるよ。
　この国は今さら国力を復活させようにも、逆回転なんてできない。だから結局、格差を拡大させて金持ち権力層が国内の減少する富を確保し、その代わり無思考の貧乏人と奴隷移民を増やそうとする政策が始まった。貧乏人に金が渡る少子化対策なんてやるワケがない。
　もちろん知恵さえあればまだまだのし上がれるけど、これから門戸はより狭まっていくだろう。

　ここで意図的に脱線するけど、無思考って語弊がある言葉だ。「思考が無いんじゃなくて、思考したフリして実際は虫みたく条件反射で動くだけだから無視される考え」のことを、「ムシ考」と定義するよ。「考えすぎるウマシカ」とは対極の存在としてね。
『鈍感力』読んでないけど、トラブルや詐欺とかに会わなければムシ考のほうがウマシカより幸せに近い。バンクシーの回でやったけど、なんとなく芸術に群がるムシ考たちの幸せそうな顔。逆に「芸術にしてはメッセージ性が足りない」とか小難しく考えるほど、ウマシカは不幸になるよ。
　つまり、「究極のウマシカ」から「至高のムシ考」までのグラデーションの間に、全ての人々は存在してるって定義だよ。

「究極のウマシカ」→「ウマシカ」→「ウマシ考」←「ムシ考」←「至高のムシ考」
◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇亀の甲羅◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

　これがウマシカの考える人類の分類イメージだよ。亀の甲羅の上に乗ってる世界観でね。

そしてウマシカ側にもムシ考側にもそれぞれに長所短所があるから、どっちかを排除ではなく補い合って共存できる多様な社会が理想だろう。
ちなみに「リア充」って本来、ムシ考のことだ。「バカなヤング」とか「ムシ考」って断定すると嫌がられるから、「リア充」って相手を持ち上げる言葉で誤魔化してるだけだ。
完璧な幸福も不幸も存在しない。だから実在しない存在を「リア充／非リア充」と呼んで誰も傷つけず、ただ自分に同情したいがための自虐だ。感心はしない。

話を戻すけど、ムシ考な貧乏人は、富裕層が管理する虚偽の統計やらAIに便利に利用され、ときに貧乏人同士でいがみ合い、ときに奴隷移民を見下しながら生きていく。さらにこれから奴隷移民は、廃炉作業や国防の最前線にも配置されたりするんだろう。

マイナンバーがちゃんと活用されれば、窓口業務を減らせる。窓口業務が減れば当然、人員削減できる。3000億円以上かけて運営してるし、正確な統計にだって役立つはずだ。
でも、マイナンバーを始めるとき、公務員を減らす議論は全くなかった。その時点で失敗は目に見えたし、単なる業務確保のための業務だ。実際機能してない。公務員は人員削減を望んでないんだから当然だ。
どうしても公務員を減らしたくないならせめて、前線の保育士とか介護士とか児相とか原発作業員とか某Ｊ隊員を増やすために、全国民でハンガーストライキでもやったらどうかね。「仕事しない天下りは全員某Ｊ隊で下働きしろ」って座り込みすれば、右も左も喜ぶんじゃないかね。
生活保護の不正受給や他人の透析だけを叩いて、数倍規模で無駄な天下りを同時に叩かないのは、ムシ考だって俺は思うよ。

だからって、上から目線で「俺は知ってる、お前らも知れ」って理想をぶつのも勘違いだろう。文化にできるのは「事実の共有とそれに対する考え方の提示」だけだ。そこから先、行動を押し付けるのはビジネスか宗教の領域だろう。
だいたい、この国は数十年前に一億総玉砕を叫んでた国なんだから、敗戦の真実を語るなんて非国民だったんだから、切腹で誇りを守る伝統なんだから、お上のために死を選ぶ国民に向かって、建設的に考えて議論しようって叫ぶ方がウマシカだ。どうかしてる。
少なくとも、「自己の幸せ」と「全体の幸せ」のどっちを優先するか、一人一人考えが違う。議論する前に、「自分だけでも生き残りたい人」なのか、「一人になるくらいなら他人と死にたい人」なのか、まず確認すべきだろう。

ついでに、野党はもう与党の言うこと否定せず全部肯定したほうがいいよ。そのほうが国民は焦る。今の国会は「与党はごり押しばかり」「野党は否定ばかり」ってムシ考同士が、ただ時間と金を稼いでるだけだ。
もし本気で改革したいなら、野党は与党にイエスだけ言い続ければ、むしろ国民自身が「このままだと国民は一生こき使われるぞ」って気付いて政治を改革するよ。もちろん、国民が蜂起し

たら今の政治家は全部排除されるかもしれんがこの際、肉を切らせて骨を断つだよ。

　あと全く関係ないけど、「没イチ」って言葉、当事者が「死別」を前向きにとらえるために、「×イチ」に似た意味合いの軽めの造語みたいだけど、「没」と「イチ」を組み合わせると不吉な感じだから、「送り婚」「送り妻」「送り夫」でいんじゃない？

　あ、明けましておめでとう。

　そういうわけで俺の昨年末年始は、「無人島は総じて面白かったけど、サメはやりすぎだった。命がけでサメ獲るのも、無理やり一匹食うのもあざとかった」とか、「SASUKEって思ったより面白い番組なのに、参加者同士の連帯ワンピース感をやたら煽ってくるアレ、大家族モノの演出と同じ香ばしさだわ。あいつらの仲間に入らない人生でホント良かったって、鉄骨渡りをワイングラス片手にホテルの最上階レストランからニヤニヤ眺める優越感を醸成してる」とか、「あのAIKOが今更カブトムシ歌うって、そりゃお茶の間はカブトムシかボーイフレンド観たいに決まってんじゃん。しかもカブトムシがけん玉するとか、カブトムシが筋トレするとか、プロジェクションマッピングで1万匹のカブトムシがAIKOを捕食するとかの過剰な演出なしで、ただ歌うだけって、無演出の方が過剰演出よりも意外じゃん。2018年の紅白はAIKOのための紅白だった。他の人はもう、結婚式の派手な余興みたいだった」とか。
　あとあんま言われないけど、恒例の福島コーナーで「明日の積み重ねでしか未来はない」って悲しみを背負った決意が、なんも変わってないなって。残酷でグロテスクな演出だと思ったのは、視聴者が軽く受け流すの前提で撮られてるんだよね。「そうそう福島ってこんなもん」「こういうセリフ言うよね福島の人だから」って視聴者の声が聞こえるようだった。「大変な思いをされてるでしょうけど、皆様の明日に向かう、エールを送るようなパフォーマンスになれば」ってさ、アイドルがエールを送る側で、福島が送られる側である根本的な理由については、不都合だから触れられない。または新しい地図だからテレビには映されない。

　物まねって言えば、言ってないけど、年末の『ものまねグランプリ2018冬』が面白かった。
　3時間番組だと通常は、審査員の水増しコメントとCMばっかで録画早送りだけど、『ものまね～』の審査員はノーギャラかってくらいコメントなくて、すぐネタになるから早送りできなかった。
　しかも一人一人のクオリティとかプロとしての本気度が高くて、程よい緊張感だった。山寺宏一が負けた時、「自分の芸のクオリティがもっと高ければ、点差も拮抗して会場ももっと盛り上がったのに、実力不足で申し訳ない」って趣旨のコメント出してて、確かに、これで一発当てようって新人じゃないから、余裕もあっての発言だとは思うけど、芸でもスポーツでも無観客ではただの趣味だから、このウマシカに至ってはただの悪趣味だから、プロとしてお客を楽しませてこそのコンテストって、自分の勝敗よりも番組全体を気遣ってててすごいと思う。
　審査結果もおおむね納得で、漫才のコンテストだと俺が最も面白くない組がいつも優勝する

から、すごくすっきりした。

　審査員がプロの芸人じゃないと芸が荒れるとかレベルが下がるって話は眉唾だと思う。第一に具体的な根拠がないし、上司の前で緊張する部下のプレゼンを観せられる観客側のいたたまれない気持ちを無視してる。
　他のどんな業種でも、同業者や上司に向かってプレゼンする方が緊張するのは当たり前だ。いい意味の緊張ならまだいいけど、上司の前で緊張しておかしな具合に口走ったりする間抜けな部下もいるよ。それはオレにとっては全然面白い芸じゃなくて、ただ慌てふためく様を観せられてる無粋なドッキリに近い物だ。
　少なくとも、芸能人と素人の合同審査で競われるものまねグランプリの芸は荒れてないどころか、若手のレベルはむしろ向上してる。素人には絶対できない芸だし、素直に感心した。

　視聴者のクレームのせいでテレビが委縮してつまんなくなってるって、テレビどんだけプロ市民かって思う。視聴者の本音を無視して、番組を私物化し利権を独占してきた自分らをまず省みないで、被害者ビジネス恥を知れって思うね。ものまねやマジ歌みたいに真剣に時間かけて作ってる番組はクレームなんて関係なく、ちゃんと面白いしね。

　あとミキは、南キャンとか、おぎやはぎをイメージしたほうがいいと思うよ。面白いけどうるさい。「おぎの気持ちは痛いほどうれしい。でも優しさだけじゃ、ユー帰れって言われると思うよ」「うん、しずちゃん、高齢ジュニアって、ミスチルを意識しすぎだよね。入る事務所も間違ってるし」とか、同じセリフでもそこ変えるだけで次回取れると思う。古すぎだし唐突で何言ってるか、俺もよく覚えてないけど。

　そんなこと考えてたら、新しい漫才できた。いつものおぎやはぎのあてがきね。
「オレね、怪獣の中に入る人になりたいの」
「あ、中島春雄さんみたいに？」
「中島さんってだれ？」
「知らない？ 初代ゴジラのスーツアクターだよ」
「スーツアクター？」
「着ぐるみの中の人だよ。ちょっと小木、もぐりじゃない？ 目指してるって割には、スーツアクターのこと不勉強じゃない？ あ、もしやスーツアクターだけにもぐりだよとか言うつもり？」
「矢作、謝って」
「え、誰に？」
「オレと。その、なんとかさんに」
「なんで？」
「だって怪獣の中に入るってことは、自分を殺すってことだよ。顔で笑って心で泣いて、表で火吐いて中でゲロ吐いて、オエって」

「暑いし、酸欠なるしね」
「そう。そんくらいプライド持ってやるつもりだよ。あくまで怪獣の名前が有名になるのが誇りであって、自分の名前はむしろ隠すのが一流だから。そのなんとかさんの名前を言いふらしてる矢作、最低だよ」
「そうなんだ、ごめんね小木。そこまでやる気だったんだね。ちょっとかっこいいよ。わかった。中島さんの名前ももう言いふらさない」
「ありがとう。矢作ならわかってくれると思ってた。じゃ、オレ着ぐるみに入るから」
「わかった、んじゃオレは」
「矢作はウルトラマンね。んでオレはオギラーになって、ウルトラマン倒すから」
「うん、あれ、小木？」
「オギラーはまずこっちから現れるから」
「あれ、小木、おかしいね。聞き捨てならないね。オレ謝り損の可能性出てきたね」
「何が？」
「だって、小木、怪獣の名前」
「あ、オギラーね。オギラーはオギ星人のペットとして飼育されていたんだけど、餌のオギ草がなくなったせいで地球を襲いに来るという」
「熱意が空回り。小木、さっき言ったよね、小木の名前は出さないって」
「もちろん、あ、オレの誇りを疑ってんの？」
「でもオギラーじゃん。オギって名前モロ入ってるじゃん」
「矢作、小木をかいかぶりすぎ」
「え？」
「気持ちはうれしいよ。小木を気遣ってんでしょ？ でもオギラーって名前で世間が想像する中の人は、せいぜい荻野さんか荻久保さんだよ。小木は認知度低いから。おぎやはぎのフロントマンは矢作だから、もしヤハギラーって怪獣がいたら矢作が入ってんのバレバレだけど、オギラーの中に小木はない。いちごジャムおにぎりよりもない」
「あそう、このおにぎり、まさか、ジャム？ ってのより、小木はないんだ。あとヤハギラーは矢作ってバレバレなんだ」
「だいたい語呂も悪い。ヤハギラー、センスないね」
「オレが考えたんじゃないけどね」
「とにかく、オギラーは強いから、ウルトラマンあっという間に倒しちゃうのね。それで次週から怪獣オギラーが始まるの」
「それはいくらなんでも、円谷プロ冒険しすぎじゃない？」
「言ったじゃん、オレは怪獣オギラーを有名にしたいの！ ウルトラマンなんていっぱいいるんだから、一人や二人倒したくらいじゃ有名になれないよ！」
「それで番組乗っ取ろうとしてんだ。そんなだいそれた野望の持ち主なんだね、怪獣オギラーは。せいぜい、ピグモンかガラモンくらいのサブキャラだと思ったらとんでもない恥知らず怪獣だね」

「だったら他に、オギラー有名になる方法、矢作考えてよ！」
「…ん〜、ティッシュ配りとかどう？」
「道で？」
「うん、バイト。あと街頭演説とかどう？」
「道で？」
「うん、選挙。有名にはなると思うよ」
「オレ、そういう地道なの嫌い。もっと派手に生きたい」
「じゃ、漫才師なろ。小木、それしかないよ」
「わかった。じゃ、あんたとはやっとれんわ」
「ありがとうございました」

　文化に上下はなく、ただ一瞬の暇をつぶす快楽だ。文化にそれ以上の意味なんてない。世界が美しいとすれば、それは光り輝く一瞬の暇つぶしにしかない。
　俺の心の手の甲にそう書いてある。

　今回はこんな感じ。
　どうかな？

考えるウマシカ～第誤算回　『使命』と「ナンシー席が空いてますけど、何か？」～

http://p.booklog.jp/book/126194

著者：弦楽器イルカ
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/126194

電子書籍プラットフォーム：パブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社トゥ・ディファクト